

2018年8月 キューバ医療事情

下記情報は当地報道を抄訳したものです。詳しくは原文をご参照下さい。

【キューバ医療事情】

8月1日【Diario de Cuba】

“公衆衛生当局はデング熱やジカウイルス症の流行の存在を認める”

当局はキューバのいくつかの地域でデング熱やジカウイルス症が発生しており、予防対策を強化するように述べた。しかし発生している地域がどこか言及していない。様々なメディアからの情報によるとカマグエイ県のフロリダで3人、サンティアゴ・デ・クーバ県のパルマ・ソリアーノで3人以上、ビジャ・クララ県のサンタ・クララで2人以上が死亡したと言われている。

8月4日【CIBERCUBA】

“キューバでデング出血熱の発生を警告”

カマグエイ独立紙がデング出血熱で3人死亡と報道した1週間後、キューバ当局はいくつかの地域でデング出血熱が発生していることを認めた。

8月6日【CIBERCUBA】

“当局は否定しているが、デング熱が蔓延”

最近の雨と気温の上昇により、ハバナでのヤブ蚊の生体サイクルが促進され、ヤブ蚊がまん延している。当局はデング熱の流行は認めていないが、孤発例の存在は認めている。そのためベクター事業者は、8月6日より活動を強化する。特にオールド・ハバナ、10月10日地区、セロ地区、マリアナオ & グアナバコア地区では防虫活動がなされる。ベクター事業者は不足しているため、少年労働陸軍兵士も活動に加わる。

8月20日【Diario Las Americas】

“調査によるとキューバ人の70%がヨーロッパ由来”

キューバ国民の遺伝子情報を調査したところ、70%がヨーロッパ由来であり、20%が奴隷として連れてこられたアフリカ人、8%が原住民で2%近くが中国人であった。これらのデータから肌や瞳の色に関わらず、全てのキューバ人はメスティーソ(混血人)であると結論づけられた。

8月21日【CUBADEBATE】

“カリブ海諸国ではジカウイルス症の感染の危険性が低下”

カリブ海公衆衛生局によると最近の調査で、ここ 30 ヶ月において、この地域におけるジカウイルス症の伝染が止まり、住民や訪問者にとって伝染病の危険性が低下したことが示された。国際公衆衛生当局も 2016 年の疫学的危機以降、劇的に減少し、以後散発的になり、今年に入っては発生していないとしている。しかしカリブ海諸国において、ヤブ蚊が媒介する疾患は、未だに脅威であるため、蚊にさされない対策は取るよう、呼びかけている。

8 月 26 日【CIBERCUBA】

“安楽死を合法化するよう求めるキューバ人”

キューバ人のあるグループは次の憲法には安楽死の権利が含まれるよう求めている。新憲法草案には含まれていないが、この議論はなされている。

8 月 29 日【TIMES of SAN DIEGO】

“キューバ、中国の外交官に何が影響したのか理論を提言”

サンディエゴの医学部のゴラム教授は、キューバと中国における米国とカナダの外交官は、パルス状高周波/マイクロ波に暴露したかもしれないと述べた。外交官達が聞いた鳴き声等の様々な音の特徴はいわゆる「マイクロ波のヒアリング」であり、フレイ効果とも知られている。国立環境衛生研究所や国立癌センターはパルス状高周波/マイクロ波は一般的に無害であると述べている。しかしゴラム教授は無害であることに意義を唱えている。この論文は 9 月 15 日に発表される。